

平成 28 年度 (2016)

京都大学

Kyoto University

文部科学省 博士課程教育リーディングプログラム 複合領域型(安全安心)

Program for Leading Graduate Schools, MEXT

(Multidisciplinary Field of Safety and Security)

グローバル生存学大学院連携プログラム

Inter-Graduate School Program for

Sustainable Development and Survivable Societies

Global Survivability Studies Program (GSS)

募集要項(10 月期)

Application Guideline

平成 28 年度

Academic year 2016



京都大学学際融合教育研究推進センター

グローバル生存学大学院連携ユニット

京都市左京区吉田中阿達町 1 番 京都大学東一条館

Center for the Promotion of Interdisciplinary Education and Research

Inter-Graduate School Unit for Sustainable Development and Survivable Societies

Kyoto University Higashi Ichijyoukan, Nakaadachicho1, Yoshida, Sakyo-ku, Kyoto

Tel: 075-762-2163 <http://wwwgss.sals.kyoto-u.ac.jp>

グローバル生存学大学院連携プログラムについて (アドミッション・ポリシー)

幅広い知識と深い専門性、柔軟な思考力と強い意志・実行力を合わせ持ち、様々な社会においてリーダーとして活躍する人材を養成することは、京都大学の使命であるとともに、産官学各界ひいては社会全体の強い要請でもある。

「グローバル生存学大学院連携プログラム」は、京都大学における9つの研究科と3つの研究所が協働し、産業界、行政機関、国際機関、国内外の大学等と協力して、安全安心分野の先進的・学際的な大学院教育を展開し、グローバル社会のリーダーたるべき人材の育成を強力に推進する。

現代の地球社会は、①巨大自然災害、②突発的人為災害・事故、③環境劣化・感染症などの地域環境変動、④食料安全保障などの危険事象や社会不安がますます大きく、かつ、広がっている。この「グローバル生存学大学院連携プログラム」では、これらの諸問題をカバーする「グローバル生存学」という新たな学際領域を開拓し（図1）、

- 1) 人類が直面する危機を乗り越え、人間社会を心豊かにし、その安寧に貢献するという使命感・倫理観にあふれた人材
- 2) 自らの専門性に加えて幅広い視野と知識・智慧によつて的確に対策を行うことのできる判断力・行動力を備えた人材

を育成する。

グローバル生存学大学院連携プログラムの修了者は、

- 一級の研究者・教育者として社会・安全システム科学分野で活躍するアカデミック・リーダー
 - 国際機関などの世界を舞台に活躍する国際的な危機管理リーダー
 - 災害・事故や経済危機を的確に対処し、企業経営を安定的・持続的に行う企業リーダー
 - 食料・資源・エネルギーなどの安全保障政策の決定に指導力を発揮する国や地域のリーダー
 - 社会の安心安全に寄与するための科学的知識・情報を伝えるサイエンス・コミュニケーター
 - 安全安心分野で新たな技術や方法論を開発して起業するニュービジネス・リーダー
- などであつて、各方面で世の中を支え、良い方向に動かしていくことのできる「人財」である。

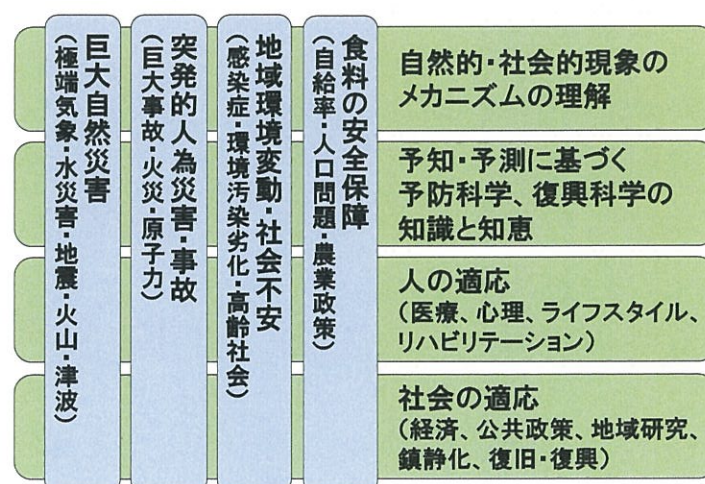


図1 グローバル生存学の範囲

上記のようなリーダーを志す有能な若者を本プログラムに迎え、充実した 5 年一貫制の大学院教育によって有為な人材を育成し世に送り出し、地球社会の調和ある共存に貢献する、というのが京都大学の願いである。

このプログラムは、各学生が所属する研究科の教育制度に定める学位課程に加えて、多くの付加的な履修項目を要求するため、5 年間の学生生活はかなり厳しいものになる。そこで、博士前期課程（修士課程）に入学後の半年（10 月～3 月）の間は「リーディングプログラム予科」として、履修者（履修予備生、若干名）をまず 10 月に募集・選抜し、2 月までの間にグローバル生存学大学院の科目等を履修させて、本プログラムを履修するための適性を有する優秀な人材を 3 月初旬に選考する。

予科における履修者（履修予備生）のうちから選ばれた若干名の学生は、プログラム履修者（本科生）として、4 月から本プログラムが定める履修要項にしたがって、グローバル生存学の学位プログラムを本格的に履修することになる。

なお、選ばれたプログラム履修者（本科生）には、リーディング博士課程における履修及び学位研究に専念するための経済支援として、受給資格（6 ページ(4) 参照）を満たす優秀な履修者（本科生）に対して月額 20 万円の奨励金（27 年度実績：4 年次生 14 名、3 年次生 10 名、2 年次生 13 名、1 年次生 18 名）を支給する。また、プログラム履修者から研究計画を公募・審査し、独創的な研究活動を行うための経費として平成 28 年度については、年額上限 100 万円（半期 50 万円）の研究活動経費（27 年度実績：4 年次生 18 名、3 年次生 10 名、2 年次生 13 名、1 年次生 19 名）を配分するほか、研究活動経費を申請しなかった者、及び研究活動経費の受給が認められなかった者については、年額 30 万円を上限に学会参加旅費等を補助する。なお、研究活動経費および学会参加旅費は、予算の関係で金額等は変更することがある。また、これらの経済支援期間は文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」採択期間の平成 30 年 3 月までである。

1. 募集人員

プログラム履修者（履修予備生）若干名

2. 出願資格

経済学研究科経済学専攻、農学研究科全専攻、情報学研究科社会情報学専攻、通信情報システム専攻の博士前期課程（修士課程）の平成 28 年 10 月期入学試験に合格し、入学する者。

3. 出願書類・募集要項の請求

以下の（１）、（２）を学際融合教育研究推進センター・グローバル生存学大学院連携ユニットにおいて配付する。

- （１）願書 1 式
- （２）募集要項 1 部

配付場所： 京都市左京区中阿達町 1 番地 京都大学東一条館 1 階
京都大学学際融合教育研究推進センター
グローバル生存学大学院連携ユニット事務室（118 号室） 電話：075-762-2163・2164

配付期間： 平成 28 年 8 月 17 日（水）～10 月 5 日（水）平日午前 9 時から午後 5 時

4. 出願手続

学際融合教育研究推進センター・グローバル生存学大学院連携ユニットに願書一式を持参し提出すること。
持参できない場合は、封筒の表に「出願書類在中」と朱書きのうえ配達状況が記録される方法（書留郵便等）で提出すること。10月5日（水）午後5時必着

- (1) 願書 1式
- (2) 出身大学の学業成績証明書
- (3) 平成26年7月以降に受験した英語検定試験の成績（TOEFL、TOEIC、IELTS）。ただし、提出できなかった場合は、平成29年1月4日（水）までに必ず提出すること。
 - ・ TOEFLの場合はTOEFL-iBT (internet-Based Test)、またはTOEFL-PBT (Paper-Based Test)、TOEICの場合は日本または韓国で実施されるTOEIC公開テストのみ受け付ける。TOEFL-ITPやTOEIC-IPなどの団体試験の成績証明書は無効となるので注意されたい。
 - ・ 成績証明書は原本に限り、コピーは受け付けない。また、後日書類に不正が認められた場合には合格を取り消すことがある。
- (4) 必修科目「リスク学通論」・「安全安心文化学」から1科目以上、及び選択必修科目「情報分析・管理理論」・「情報分析・管理演習」・「環境・リスク経済学」（平成28年度不開講）から1科目以上履修することを証明できる書類（例：聴講願のコピー等）

提出場所：〒606-8306 京都市左京区吉田中阿達町1番地 京都大学東一条館
京都大学学際融合教育研究推進センター
グローバル生存学大学院連携ユニット事務室（118号室） 電話：075-762-2163・2164

受付期間：平成28年9月28日（水）～10月5日（水）午前9時から午後5時

5. プログラム履修者（履修予備生）の選抜方法

願書、出身大学の学業成績、英語検定試験の成績、大学院入学試験の成績による書類審査によって選抜する。

6. プログラム履修者（履修予備生）の合格発表

プログラム履修者（履修予備生）の合格発表は、10月18日（火）にホームページにおいて行う。

7. リーディングプログラム予科について

プログラム履修者（履修予備生）は、後期（3月まで）の「リーディングプログラム予科」の間に、自らの研究科の課程の履修を進めるとともに、本プログラムの目的と内容を理解し、自らの能力と適性を確かめることとする。そのため、このリーディング予科期間に履修者（履修予備生）は以下の科目などを履修させる。

- (1) 必修科目「リスク学通論」・「安全安心文化学」から1科目
- (2) 選択必修科目「情報分析・管理理論」・「情報分析・管理演習」・「環境・リスク経済学」（平成28年度不開講）から1科目

- (3) 学際ゼミナール科目 (6 回分以上)
- (4) 英文課題レポート
- (5) 英語プレゼンテーション
- (6) 英語グループディスカッション
- (7) 履修予備生最終レポート (研究・学修計画) の内容

※ プログラム予科の期間中に本プログラムの履修を辞退したい場合は、書面 (様式自由、署名または捺印すること) にてグローバル生存学大学院連携ユニット事務室に届け出ること。

8. プログラム履修者 (本科生) の選考

3 月初旬までに資格審査・選考を行い、プログラム履修者 (履修予備生) の中から 4 月以後のプログラム履修者 (本科生) を選考する。その選考の際の判断材料は、

- (1) リーディングプログラム予科の成績 (リスク学通論、安全安心文化学、情報分析・管理論、情報分析・管理演習、環境・リスク経済学 (平成 28 年度不開講)、学際ゼミナール科目 (6 回分以上)、英文課題レポート、英語プレゼンテーション、英語グループディスカッション)
- (2) 平成26年7月以降に受験したもので平成29年1月4日 (水) までに提出可能な英語検定試験の成績 (TOEFL、TOEIC、IELTS)
 - ・ TOEFL の場合は TOEFL-iBT (internet-Based Test)、または TOEFL-PBT (Paper-Based Test)、TOEIC の場合は日本または韓国で実施される TOEIC 公開テストのみ受け付ける。TOEFL-ITP や TOEIC-IP などの団体試験の成績証明書は無効となるので注意されたい。
 - ・ 成績証明書は原本に限り、コピーは受け付けない。また、後日書類に不正が認められた場合には合格を取り消すことがある。
- (3) 履修予備生最終レポート (研究・学修計画) の内容
- (4) 大学院入学試験の成績
- (5) 意思確認書

などとする。

詳細については、グローバル生存学大学院連携ユニットの入進学審査委員会が定めるものとし、履修者 (履修予備生) にはオリエンテーション時など適切な時期に知らせる。

9. プログラム履修者 (本科生) の合格発表

プログラム履修者 (本科生) の合格発表は、3 月 8 日 (水) にホームページにおいて行う。

選ばれた学生は、プログラム履修者 (本科生) として、4 月からグローバル生存学の学位プログラムを本格的に履修する。学位プログラムの詳細は、平成 29 年度に配付する履修要項を参照されたい。

10. 個人情報の取り扱いについて

取得した個人情報は、プログラム履修候補者・履修者の選抜および履修に伴い必要となる業務のために、「京都大学における個人情報の保護に関する規程」の定めるところにより取り扱う。

11. プログラム履修者（本科生）決定までの流れ

上記の手順を以下に図示する。

時期	手続き項目	備考
8/17～10/5	出願書類・募集要項の請求、配付	GSS ユニット事務室
	↓	
9/28～10/5	出願書類の受付	GSS ユニット事務室
	↓	
10/3	GSS プログラム後期授業開始	
	↓	
10 月初旬 (研究科により手 続期限が異なる)	各研究科・専攻での履修登録 (他研究科科目の聴講願も提出)	(学生が各研究科 において手続き)
	↓	
10/18	プログラム履修者（履修予備生）の合格発表	GSS ホームページ
	↓	
10/下旬	プログラム履修者（履修予備生）オリエンテーション	
	↓	
10 月下旬	リーディングプログラム予科	
	↓	
12 月中旬	奨励金申請・研究活動経費申請 (履修予備生最終レポート)	
	↓	
3 月初旬	プログラム履修者（本科生）の選抜	
	↓	
3/8	プログラム履修者（本科生）の合格発表	GSS ホームページ
	↓	
4/1	平成 28 年度 10 月入学生 GSS プログラム本科の開始	
	↓	
4 月上旬	GSS 入学式 プログラム履修者（本科生）オリエンテーション	

(参考)

前年度（平成 27 年度）リーディングプログラムの実施状況について

(1) プログラム履修候補者（予科生）の履修課題

- ・ GSS 全体セミナー：概論レクチャー6回、概論レクチャーの英文レポート6回、英語プレゼンテーション（「発表15分＋質疑応答15分」）とグループディスカッション（50分）
- ・ 予科最終レポート（研究・学修計画）

(2) プログラム履修者（本科生）の履修課題（GSS ホームルームは必修、それ以外は履修者が選択）

- ・ GSS ホームルーム（月1回）及び金沢市・能登半島における合同合宿型ホームルーム（夏期休暇時）
- ・ 学際ゼミナール13回（1回コース10回、2回コース1回、8回コース1回、リーダーシップ育成ワークショップ1日間コース1回）
- ・ 海外フィールド実習1回（シンガポール）
- ・ インターンシップ研修2回（サマーインターシップみずほ第一ファイナンシャルテクノロジー、WHO ウィンターインターシップ）
- ・ 国際学術交流3回（グローバル社会におけるアフリカ在来知と紛争－平和、紛争解決、共存のための生存学をめざして－、ユネスコ IHP トレーニングコース、ボッダムサマースクール 2015）
- ・ 英語研修8回（スピーキング1日コース3回、プレゼンテーション1日コース3回、ライティングセミナー1日コース2回）

(3) プログラム履修者状況

- ・ プログラム履修者（予科生）26名（3年次編入予備生）4名（平成27年4月～9月）
- ・ プログラム履修者（本科生・3年次編入含む（平成27年10月1日現在））71名
（4年次生20名：教育1、経済1、理1、医2、工6、農1、アジア・アフリカ5、情報1、地球環境2
3年次生17名：教育1、理1、医2、工3、農3、アジア・アフリカ5、情報1、地球環境1 2年次生
14名：教育1、理1、医3、工2、農1、アジア・アフリカ4、地球環境2 1年次生20名：教育1、
経済2、医5、工2、農3、アジア・アフリカ5、地球環境2）

(4) プログラム履修者への経済支援状況

プログラム履修者には、リーディング博士課程における履修及び学位研究に専念するための以下のよう
な経済支援を行っている。

- ・ 受給資格^{*}を満たす優秀な履修者に対して月額20万円の特待生奨励金（27年度実績：4年次生14名、
3年次生10名、2年次生13名、1年次生18名）を支給
- ・ 研究計画を公募・審査し、独創的な研究活動を行うための経費として年額上限120万円（半期60万円）
の研究活動経費（27年度実績：4年次生18名、3年次生10名、2年次生13名、1年次生19名）を配
分（平成28年度は、年額上限100万円（半期50万円））
- ・ リーディングプログラムを履修するための経費として全員（平成28年度は、研究活動経費を申請しな
かった者、及び研究活動経費の受給が認められなかった者）に年額30万円を上限に学会参加旅費等を
補助

ただし、受給資格を満たす者とは、以下の[1]～[5]のすべてを満たす者である。

- [1] 本プログラムの履修者（本科生）
- [2] 各種奨学金等による支給を受けていない者
- [3] アルバイト等による収入を得ていない者
- [4] 本学大学院の在籍期間（休学期間を除く）が5年を超えない者
- [5] 本プログラムにおける成績等評価において特に優秀と認められる者